

持続的成長を見据えた グループ経営基盤 SAP Cloud ERPを 8ヶ月で短期導入

SAP導入企業事例 リオ・ホールディングス

不動産を中心とした資産運用ソリューションを展開するリオ・ホールディングスは、ビジネスの成長に伴い顕在化した会計データ連携の課題をSAP Cloud ERP導入によって解消。100社超のグループ企業のデータ連携に向けた次世代経営基盤を約8カ月で導入した。

データ連携の限界を突破

ワンストップ型の不動産を中心とした資産運用コンサルティングで事業を拡大してきたリオ・ホールディングスは、現在、売買仲介からホテルや商業施設の運営・管理まで幅広い事業を展開している。企業規模も大きく成長し、資産管理法人も含めるとグループ会社は100社を超えた。

その一方で課題となっていたのが会計システムの拡張性で新たなシステムが追加されるにつれ、システム間の連携に限界が生じ始めていた。

こうした背景から2022年末、本格的なIT投資として財務会計基盤刷新プロジェクトを始動。導入方針は、全システムのAPI連携と、Fit to Standard（システムの機能に業務を合わせる）だった。その中核基盤としてSAP Cloud ERPが採用された。

同社のビジネスは富裕層向け不動産運用を主軸とするため、会計構造も複雑だ。複数勘定が一つの取引内に混在するほか、一つの物件に対し複数の会社が事業活動を行っているため、物件単位や連結ベースでの収支管理が求めら

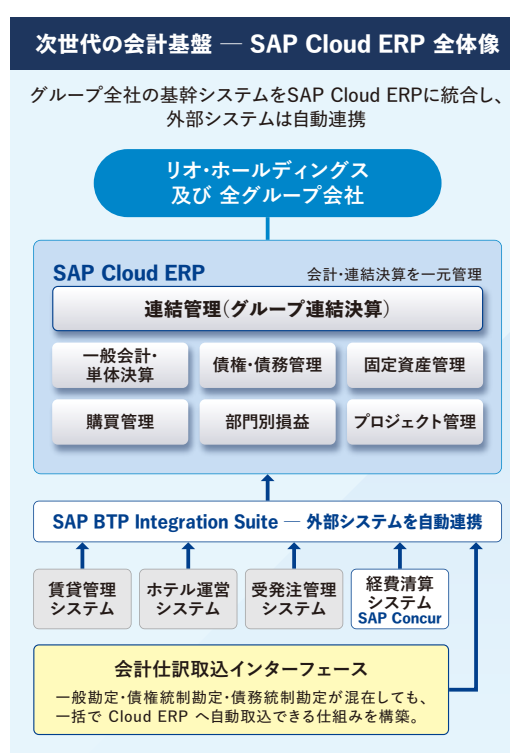
れる。関与物件は600を超え、グループ会社間取引も多い。固定資産管理では、複数の台帳管理を表計算ソフトでの手作業で実施するほど逼迫していたという。

連結決算作業を9割削減

そこでSAPの複数固定資産台帳管理方式と複数元帳を標準機能の範囲で活用し、税務台帳、単体決算元帳、連結用単体元帳を目的別に管理する多次元管理基盤をシステム上に実装。連結仕訳の自動振り替えも実装し、単体決算完了時点で連結処理もほぼ完了できる体制を整えた。同社代表取締役の中川智博氏は「数字を集めるための連結作業は90%以上削減された」と話す。

さらに債権消し込み業務では、SAPの自動照合機能を活用。外部システムからの連携時に照合キーをSAP上に保持させることで、自動化範囲を拡大し、作業工数を大幅に削減。債務消し込みについても、SAP標準の支払処理と連動させることで、支払実行と同時に消し込みが完了する運用を実現した。

導入プロジェクトは約8カ月で本番稼働を迎え、会計業務効率化だけでなく、データ収集・分析速度向上による経営判断の高度化やガバナンス強化にもつながった。今後もSAP Cloud ERPを中心にAI（人工知能）も活用した持続的成長と次世代への承継を見据えた経営基盤構築を目指す。



リオ・ホールディングス
代表取締役
中川智博氏



日経電子版広告特集にて
詳細を掲載

<https://ps.nikkei.com/sapjapan2409/vol7.html>

問い合わせ：SAPジャパン

<https://www.sap.com/japan/registration/contact.html>
TEL: 0053-149-0110 | 03-6737-4463

広告

企画・制作＝
NIKKEIブランドスタジオ

限られた人手を、 限らない挑戦へ。

日本企業の99.7%は中堅中小企業。
この国の可能性の多くは、彼らのなかにある。

けれど、変化の波が押しよせる、やっかいな時代。
未来より今日に追われる。
はがゆい場面が増えていないだろうか。

解決策は、人を増やすことだけじゃない。

AIの力で、少人数でも大きな成果を出せること。
人の力を、未来を決める仕事へ向けられること。

だからSAPは、AIが意思決定を支え、つぎの挑戦を後押しする。

一社一社の挑戦がこの国の可能性だと信じているから。

SAPとなら、 どんな変化も のぞむところだ。

◆ 中堅中小企業こそ、SAPのAIクラウドERP。

SAP GROW



詳しくはSAP ジャパンまで
TEL 00531-49-0110 (無料通話)
03-6737-4463
受付時間 平日 9:00～18:00

※本画像の一部にAI技術を活用しています。



Bring out
your best.